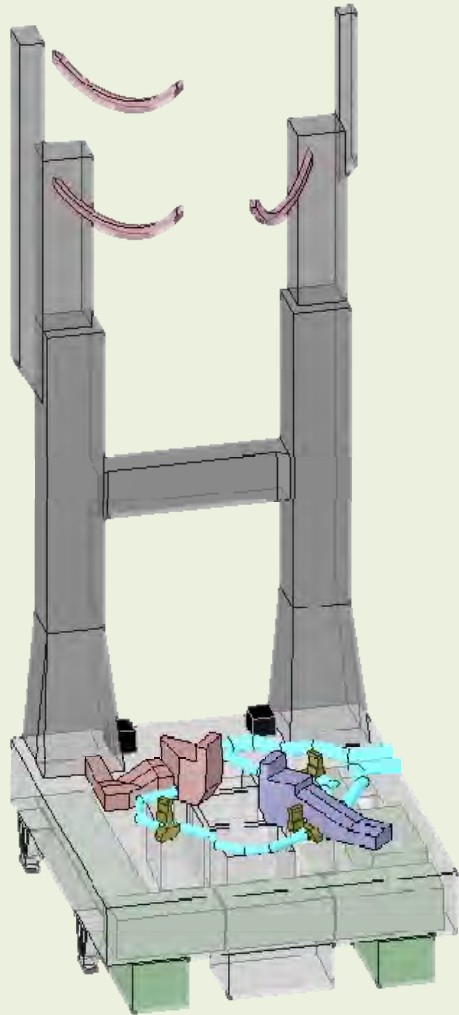


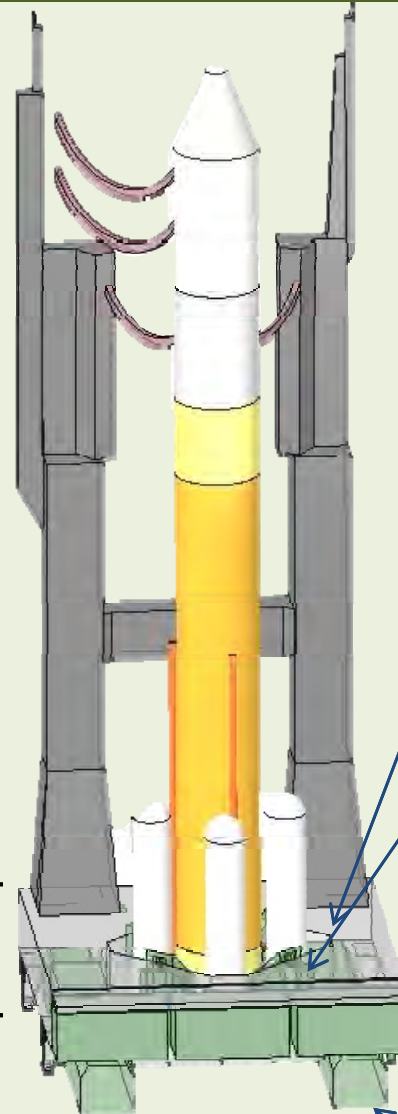
新移動発射台 (ML)

ML3 (H-IIB)



新ML (H3)

本体
構造



【上部デッキ】

- 上部デッキを平坦化
(打上げ後補修作業を削減)

【発射固定台】

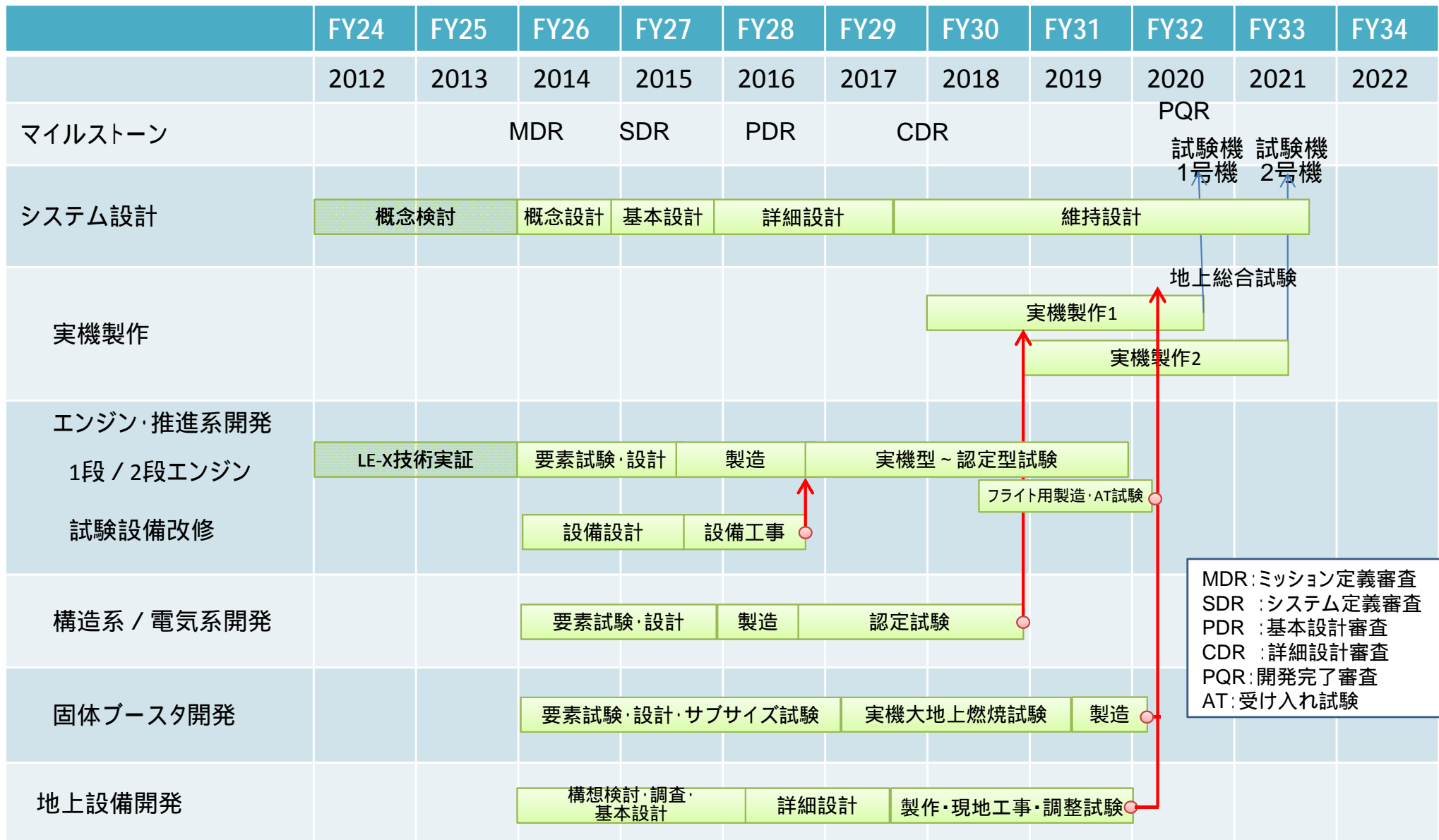
- 機体ホールドダウン機能の付加

【運搬車】

- 新規整備

3. 開発計画

- 2020年度に試験機1号機を打上げ予定。試験機2号機の打上げを評価し、開発を完了。
- 総開発費； 約1900億円



詳細設計の主要留意点

■ プロジェクト目標と運用コンセプト

- 国際打上げ市場動向の継続的な調査・分析と対応
- 試験機1号機および2号機の機体形態の確定（飛行実証と各ミッションへの対応の両面の整合）
- 受注から打ち上げまでの大幅な期間短縮に向けた安全審査プロセスの具体化

■ 開発管理

- 現時点で未確定な仕様や今後のエンジン燃焼試験等に備えたリスク管理の徹底
- 開発スケジュール余裕のさらなる確保

■ 主要技術課題

- 中間形態（H3-32L）の打上げ能力の余裕（開発マージン）確保
- 車載用電子部品を使用する際の耐放射線性能の評価と対応（宇宙用部品の使用等）

4. 今後の予定

- 2016年度:基本設計審査(PDR)を経て詳細設計フェーズに移行し、以下を実施予定
 - (1) 技術試験用供試体の製造に向けたサブシステム、コンポーネント等を含む設計・図面作成
 - (2) 地上設備の製造に向けた設計
 - (3) 要素試験の実施
 - (4) 燃焼試験設備の工事
 - (5) 技術試験用供試体の製造ならびに一部の技術試験の実施
 - ① LE-5B-3 認定型エンジン燃焼試験(下半期、三菱重工田代試験場および角田宇宙センター)
 - ② LE-9 実機型ターボポンプ単体試験(下半期、角田宇宙センター)
 - ③ LE-9 実機型エンジン燃焼試験(下半期、種子島宇宙センター)

- 2017年度:引き続き詳細フェーズにて以下を実施し、詳細設計審査(CDR)の実施を経て、製作・試験フェーズ(維持設計)に移行予定
 - (1) 技術試験用供試体の製造に向けたサブシステム、コンポーネント等を含む設計・図面作成
 - (2) 地上設備の設計および製造
 - (3) 技術試験用供試体の製造ならびに技術試験の実施
 - ① LE-5B-3 認定型エンジン燃焼試験(継続)
 - ② LE-9 実機型エンジン燃焼試験(継続)
 - ③ SRB-3 実機大燃焼試験(下半期、種子島宇宙センター)
 - ④ 1段厚肉タンクステージ燃焼試験の準備 等